



# 農業委員会だより

■発行人 飯山市農業委員会 松永晋一  
■編集 飯山市農業委員会 情報委員会

飯山市  
農業委員会事務局  
飯山市役所農林課内  
電話：62-3111  
(内線261)  
FAX：62-6221

19.9

No.238

## 北信州農村女性のつどい

令和元年8月22日、『北信州農村女性のつどい』が野沢温泉村の野沢温泉スパリーナにおいて開催されました。

このイベントは、北信地域の女性農業者を中心に農業関係者が一堂に会し、地域内外の先進的な活動事例や取組を学び合う機会とするため、平成13年より19回



事例発表 丸山和義氏

目の開催です。

講演会では、地元野沢温泉村旅館さかやの森雪氏より「小さな村のA級グルメ」と題し講演をされました。その中で、地元野沢温泉村の環境が育む野菜や山菜を、麻釜の源泉を使ったその土地でしかできない調理方法で提供し好評を得ている。都会、海外のお客さまはそういったところでしか味わえない旬な料理を提供することに、お客さま自らが情報発信していただき、地域全体の活性化につながっているというものでした。

事例発表では、飯山市農業委員の丸山和義氏より、自身が中心的役割を果たしている「小沼ほうき」の取り組み事例を発表いただきました。現在では、地元でも知る



人ぞ知るといふ存在になつてしまった「小沼ほうき」ですが、その由来は明治初期までさかのぼり、豪雪地帯である飯山市において農家の副業として始まりました。最盛期の戦後から昭和50年代後半までは冬季間に3万本以上が生産されていましたが、掃除機の普及や一般家庭における和室の減少などによって徐々に需要が減退し、生産が縮小していきました。そして、平成30年に生産組合が解散してしまいました。



しかし、竹串を構造体に使用する丈夫な作りと美しい仕上げから、絶やしてはいけない、という有志により、組合解散直後に「小沼ほうきを守る会」が発足しました。ほうき草の栽培から会員相互の技術継承、学校の授業への導入などの地道な取り組みにより、ついに平成31年3月に長野県の伝統工芸品に指定されました。現在では、飯山市のふるさと納税の返礼品となったり、販路拡大、新商品開発といった普及に努めているのですが、これに至るまでの経緯や背景を発表いただきました。

加工品の販売が会場で行われ、盛況を博していました。今後、各分野における女性の社会進出はますます重要となつてきており、特に農業分野においては、農業従事者もとり、家庭生活全般を担い、農村地域の活動にも広く携わり、農業経営や地域社会において女性の果たす役割は非常に大きく、重要な位置づけとなっております。農村女性のますますの活躍が期待されます。(農業委員会 事務局)

あしあと	7・8月の活動記録
7月 9日	農業委員会役員会
26日	7月農業委員会総会
〃	情報委員会
8月 6日	農業委員会役員会
29日	8月農業委員会総会
〃	北信五市農業委員会研修会

## 北信五市農業委員研修会

去る8月29日に北信五市(中野市・須坂市・長野市・千曲市・飯山市)農業委員会研修会を実施しました。今年飯山市が当番市となり、斑尾高原ホテルにて行われました。参加人数は130名あまりでした。

講演

「人・農地プランの実質化に向けた取り組みについて」と題して、長野県農業

会議・専務理事兼事務局長小林文彦氏よりお話がありました。

ここで「人・農地プラン」についての説明をしたいと思えます。

「人・農地プラン」とは、地域農業者の話し合いに基づき地域農業の今後の在り方や農地の受け手を誰にするか、出し手の状況等を明確化していくという考え方です。

現在、市内では「人・農



開催地の飯山市農業委員会長の挨拶

地プラン」の実質化に向けて動き出している地域もあります。これは飯山市だけでなく全国で取り組まなければならないと思います。「人・農地プラン」が必要とされる背景としては、かつて作物ごとに系統組織を通じ生産出荷戦略が立てられ、産地形成できていた結果として農地が有効利用されていたが、販売ルートや消費の多

様化に加えて、農業者の高齢化が急速に進行したことにより、地域の生産基盤が弱体化し、これらの要因により農地の遊休荒廃化も進行しました。このことから地域の農業・農地を伝統文化、自然景観などと一緒につかり世代間で引き継いでいくには、あらためて「人と農地」に着目した話し合いの場が必要である、というものです。

そのため、今使われている農地を、使えるうちに使える人に算段するのが「人・農地プラン」です。

実質化の要件は、アンケートの実施・現状把握・中心経営体への農地の集約化に関する方針の3点です。これらのことを踏まえ、農業委員・農地利用最適化推進委員は話し合いへの参加、地域の担い手への情報提供、問題提起、話し合いへの参加呼びかけなどが重要となると思いました。

続いて成功事例と続き、講演は約一時間ほどで終了しました。今後の活動に役立てたいと思います。



▲ 講演の様子



▲ 常盤牛蒡(ごぼう)茶の試飲の様子



▲ 中野市による事例発表の様子

### 中野市による事例発表

「仲良く明るく楽しい農業委員会を目指して」と、中野市農業委員会の一年を通しての活動を面白おかしくお話いただきました。

中野市農業委員会は農業委員20名、農地利用最適化推進委員17名の計37名で組織されていて、部会は農地・農政・振興の3部会があり、全員が3部会のうちの1つに所属し活動を展開しているそうです。

本来の活動である農地審議・農地利用最適化に加え、各種団体との交流や懇談会、児童への食農教育など活動は多岐に渡っています。北信地域は同じ中山間地を抱える地域であります。が、場所によって米や果樹、キノコ産業など、特色のある営農が盛んに行われています。年に一度北信地域の農業委員が一同に会し情報交換や交流ができ、大変に有意義な研修会となりました。

農業委員 服部 克士  
農業委員 小林喜代春